



中期経営計画の進展

2011年5月12日
株式会社ニコン

※本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的风险及び不確実性が含まれます。従いまして、様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく乖離する結果となる可能性があることをご承知おきください。

Agenda

I. 前回計画の振り返り

II. 基本方針及び全社数値目標

III. 事業別施策及び数値目標

IV. 株主還元

ニコングループが目指す姿

常に新たな価値を提供し成長し続ける
ニコングループ

各年度の目標

11年3月期	12年3月期の成長軌道回帰を 確実にする黒字化を達成	売上8,875億円 営業利益541億円 達成
12年3月期	速やかに継続的な成長軌道 へ回帰	売上9,400億円 営業利益680億円 見通し
13年3月期	売上高1兆円超 営業利益率10%超を達成	

成長軌道へ回帰し、継続的成長を目指す

事業の機能強化

アジア・新興国における市場への取り組み強化
生産のリードタイム短縮
為替リスク低減
事業部門と本社研究部門との連携強化
非カンパニー系子会社の事業セグメント見直し

グローバル化の推進

海外生産、海外開発の拡大
中国・アジア統括会社の設立

新規事業の創出

震災への対応

Agenda

I. 前回計画の振り返り

II. 基本方針及び全社数値目標

III. 事業別施策及び数値目標

IV. 株主還元

4つの方針

ニコンブランドの
拡がり

新規事業の
創出

一体感とスピードの
ある組織の実現

事業機能の強化
とプロセス改革

CSR経営

全ての主力事業でリーディングポジションを確立、新規事業の創出

個々の事業機能を高いレベルで連携させ、事業プロセス全体を最適化

拠点のグローバル展開と人材の現地化推進

事業毎の分権経営の推進とコーポレート機能の強化

震災経験を踏まえたリスク管理強化

事業環境全般

- 新興国・中国は大きく成長、各国の景気刺激策等により景気回復、
今後は難しい舵取りながら各国とも成長基調
- 先進国の情勢悪化、新興国成長の減速などに繋がる不安定要素も存在
- 震災について：初年度は売上、利益に影響、第2年度以降は影響は軽微
- 為替は、2012年3月期：1ドル＝80円、1ユーロ＝115円
2014年3月期：1ドル＝80円、1ユーロ＝110円

3カンパニーの事業環境

精機事業

半導体分野は緩やかな成長
液晶分野は高精細の需要増

映像事業

デジタル一眼市場は二桁
成長を維持
コンパクトデジタルカメラ
市場は新興国の伸張も
あり拡大が継続

インストルメンツ事業

バイオではライブセル
イメージング分野が成長
産業機器では非接触
三次元測定機分野が成長

経営数値目標(全社)



	11年3月期	12年3月期	14年3月期
売上高	8,875億円	9,400億円	12,000億円
営業利益	541億円	680億円	1,350億円
当期純利益	273億円	420億円	800億円

為替の前提

2011年3月期: USD 86円 EUR 113円

2012年3月期: USD 80円 EUR 115円

2014年3月期: USD 80円 EUR 110円

Agenda

- I. 前回計画の振り返り
- II. 基本方針及び全社数値目標
- III. 事業別施策及び数値目標**
- IV. 株主還元

精機カンパニー

- 液浸露光装置の競争力向上によるシェア拡大
- 高精細化ニーズに対応した液晶露光装置の展開
- リードタイム短縮・コストダウンによる収益力強化
- 新技術の開発・新事業分野への進出

映像カンパニー

- 映像分野のNo1ブランドへ向け、認知度向上とイメージを強化
- 次世代商品/新規領域商品による市場の創出
- 新興市場への展開を加速し、トップシェアを目指す
- 調達力とサプライチェーンの強化

インストルメンツカンパニー

- 顕微鏡：先端研究分野でリーディングポジション獲得
- 測定機：非接触三次元測定分野でリーディングポジション獲得
- 既存事業の強みを活かし、バイオ領域で新事業を育成・拡大

経営数値目標(3カンパニー)



売上高	11年3月期	12年3月期	14年3月期
■ 精機	2,086億円	2,650億円	3,000億円
■ 映像	5,964億円	5,850億円	7,900億円
■ インスト	575億円	650億円	800億円

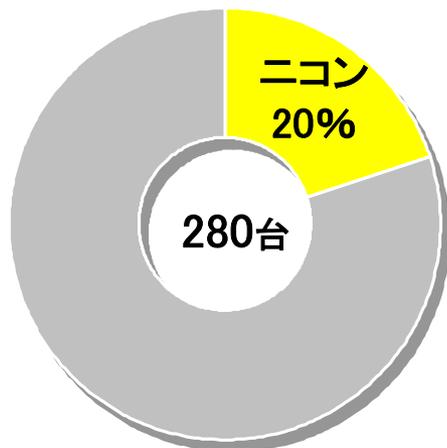
営業利益 (対売上高比)

■ 精機	27億円 (1.3%)	310億円 (11.7%)	440億円 (14.7%)
■ 映像	523億円 (8.8%)	530億円 (9.1%)	940億円 (11.9%)
■ インスト	▲52億円 (-%)	5億円 (0.8%)	80億円 (10.0%)

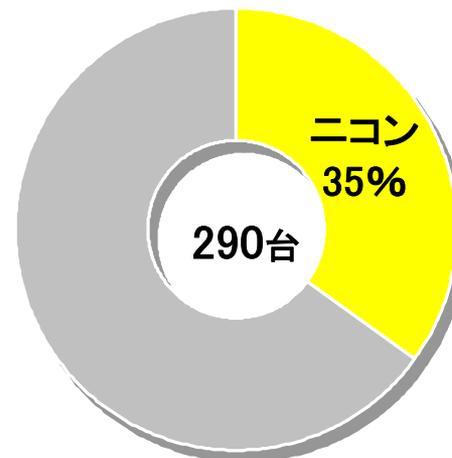
*ニコン推定

市場とシェア：半導体露光装置

2011年3月期

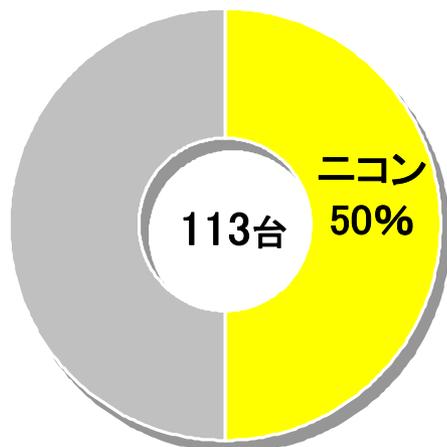


2014年3月期

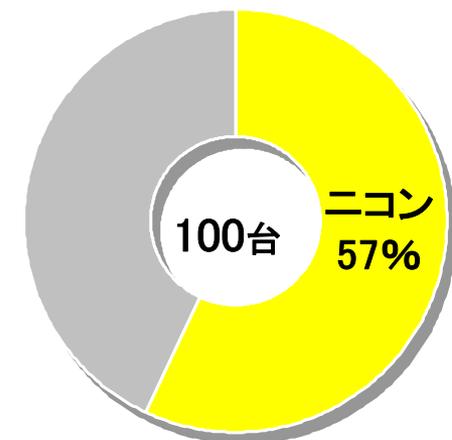


市場とシェア：液晶露光装置

2011年3月期



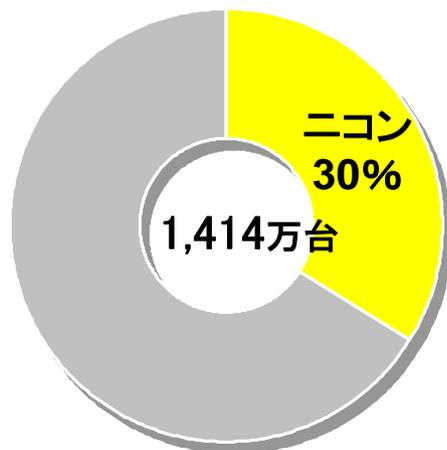
2014年3月期



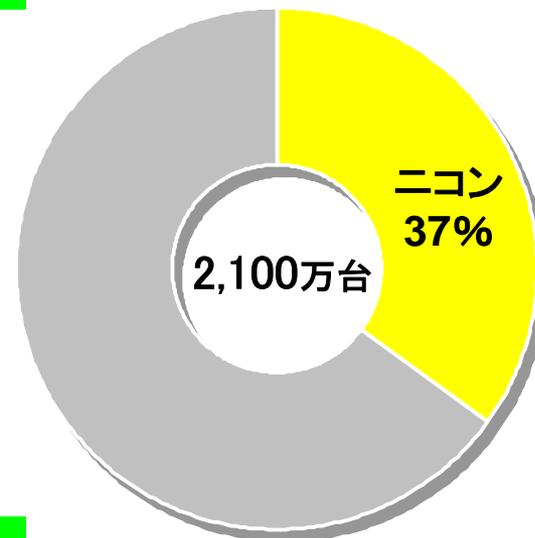
*ニコン推定

市場とシェア：デジタル一眼カメラ

2011年3月期

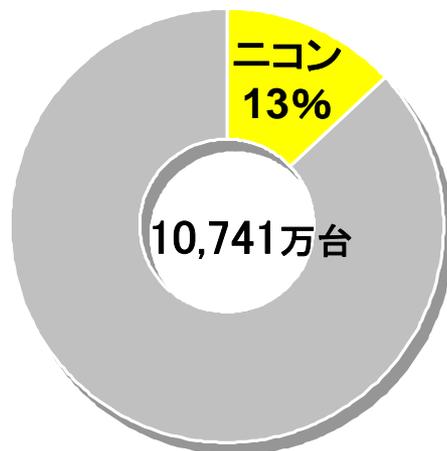


2014年3月期

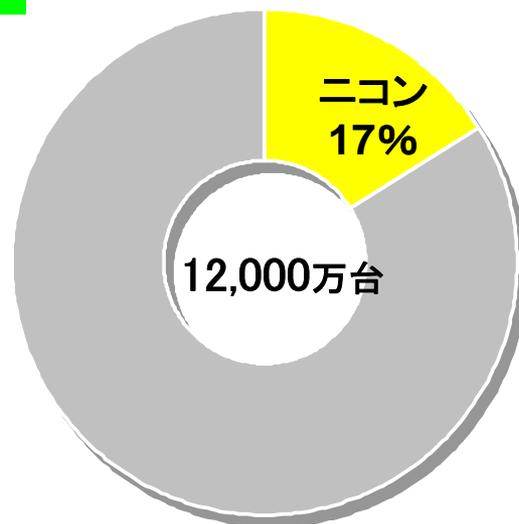


市場とシェア：コンパクトデジタルカメラ

2011年3月期



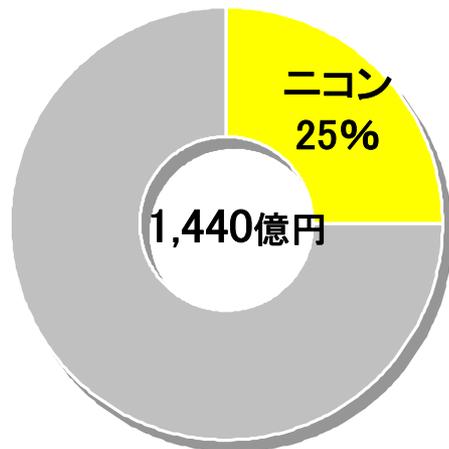
2014年3月期



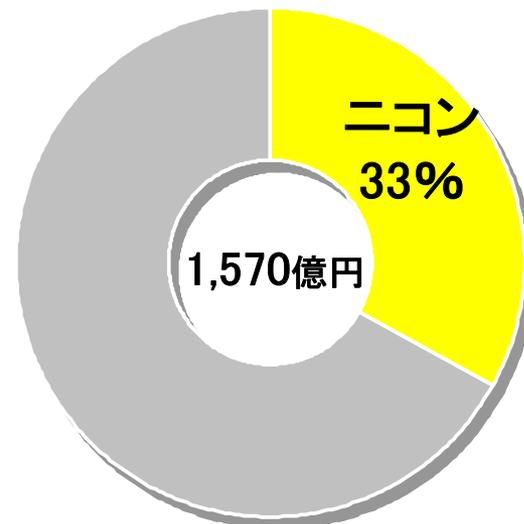
*ニコン推定

市場とシェア：生物顕微鏡

2011年3月期

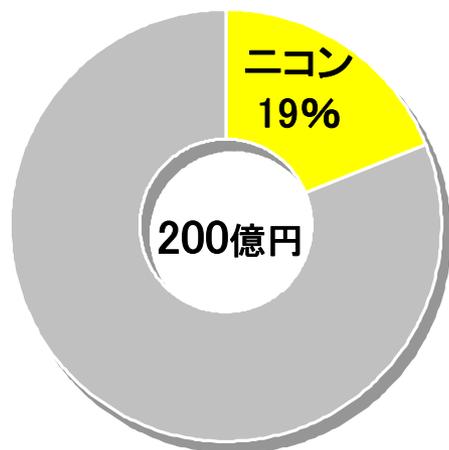


2014年3月期

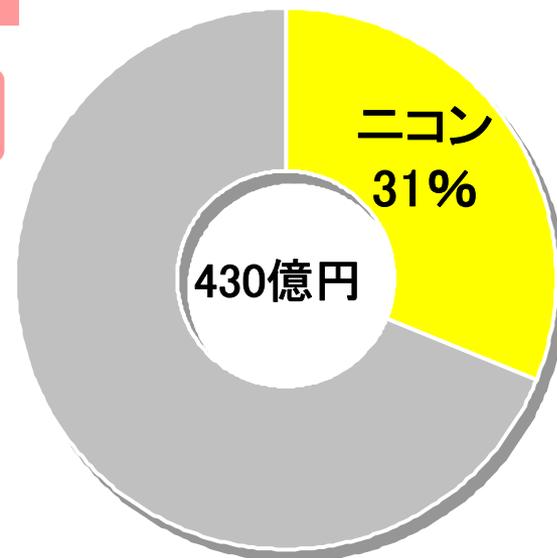


市場とシェア：非接触三次元測定機

2011年3月期



2014年3月期



既存事業の強化・拡大、新たな事業展開に必須の設備投資を行う
研究開発費は売上高比6～7%水準を維持

精機事業



映像事業



インストルメンツ事業



2012年3月期～2014年3月期の累計

設備投資 : 総額 1,500億円 (前回計画比300億円増額)

研究開発費 : 総額 2,100億円 (前回計画比100億円増額)

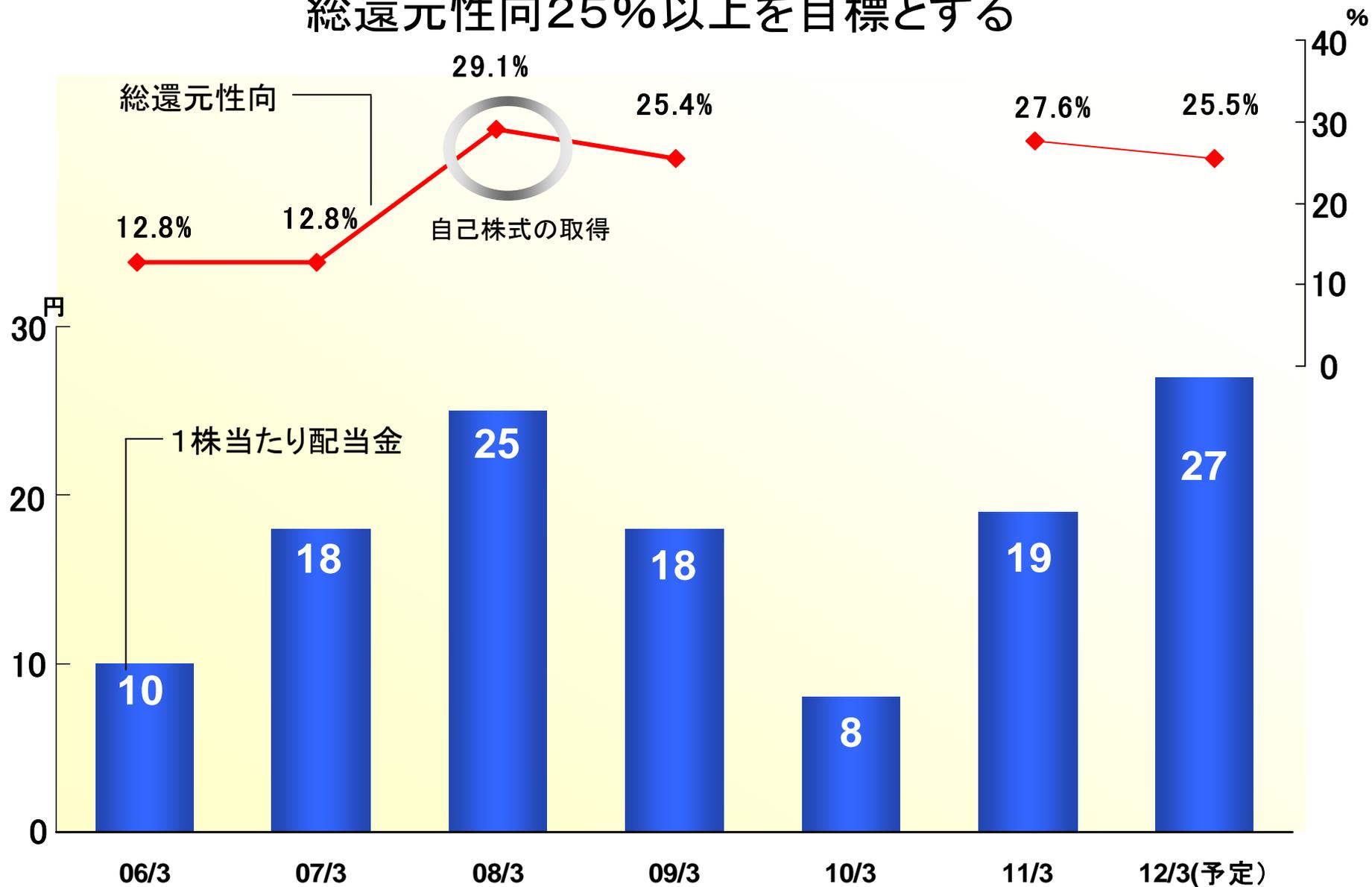
Agenda

- I. 前回計画の振り返り
- II. 基本方針及び全社数値目標
- III. 事業別施策及び数値目標
- IV. 株主還元**

一株当たり配当金と総還元性向



総還元性向25%以上を目標とする





NIKON CORPORATION